

青森 県立青森南高等学校



高校生ボランティア・アワード2024

「紡ぐ」

活動概要

①小牧野遺跡での土器づくり
縄文時代に行われたことを実際に体験してから本格的に活動を始めようと思わず、青森市内にある小牧野遺跡でスタッフの方に土器の作り方を教えてもらい土器を作りました。作ってみたいところ、作るまでの過程がかなり難しくて縄文時代では生活の基盤を作ることが困難だったことと大変だったことと協力して生活していたことを知ることができました。また、模様をつけるのもとても難しく、今よりも技術が発展していないためここまで高度に作れるのは、大自然で生活したことで身についた繊細さと器用さがゆえだと思いました。また、出来上がった土器は少しでも気泡が入っていると割れてしまうので気を付けて作らなければいけないのが大変でした。

②縄文祭りの参加
小牧野遺跡で昨年の7月30日に行われた縄文祭りで青森南高校のブースを設けさせていただきました。縄文鍋を自分たちで作る来場者の方に振る舞う、木の火を使用した縄文ブレッド、ミニチュア土器づくり、世界遺産スタンプラリーなどを行いました。地域の方々や子供たちに縄文の魅力を知ってもらえるとても良い経験となりました。また、どのように説明したらわかりやすいのかなど新たな改善点も見つかり新たな発見が沢山出来たと感じました。

③東北北にある縄文遺跡
青森市内の遺跡だけでなく、市外にある縄文遺跡も訪れました。北海道、東北北にある縄文遺跡を見学しました。各遺跡を見学して縄文時代の中でも前期、中期、後期、晩期等に分類されている時代区分によって生活スタイルも変化しているのが現代と変わらなそうと感じました。

④北海道函館市にある南茅部高校との交流
函館市にある南茅部高校縄文部の皆さんと交流会を行いました。堀ノ島遺跡のすぐ近くに位置している南茅部高校も私たちが同じように縄文の魅力について広めたいという活動を行っている、どのように活動しているのかなど意見を交換しました。南茅部高校のみなさんは今の時代に合っている電子機器を使用した遺跡のガイドを行っています。また、堀ノ島遺跡縄文祭りでのような発表を行っているのかなど私たちの普段の活動に役立てそうな工夫の仕方がたくさんありました。

⑤堀ノ島遺跡
10月8日に函館市で行われたはこだて縄文まつり2023in函では、普段行っている縄文についての探究活動を訪れた地元の方々に発表をしました。多くの方に会場に来ていただくことができればいいという活動を知ってもらったことがとても良い機会になりました。

⑥御所野遺跡
村井亮さんがゲストの縄文ワークショップというラジオ番組に参加しました。村井さんと一緒に遺跡を探索し詳しく深い内容を知ることができた、自分たちがガイドするときの参考にもなりました。

⑦三内丸山遺跡での体験活動
縄文時代の人々のファッションや生活についての知識を深めるために三内丸山遺跡で体験活動を行いました。勾玉は実際に当時ファッションとして身につけられていたものであり、いま私たちが身につけているネックレスとあまり変わりはないのでとても興味深いです。



「平和」

活動の目的・志など

一年生の時、総合的な学習の時間で各クラスごとにテーマを設定して地元とそのテーマを結び付けて市議会委員の方に説明するという活動を行いました。私達のクラスでは、「平和」をテーマに探求をおこなうことになり、その中でも「縄文と平和」を結び付けたいのではないかと考え、探求活動を行いました。縄文と平和をつなげて探求しようと思った理由は、小学校からの経験がありました。青森県には世界遺産登録されている縄文遺跡群があり、小学校の頃から遺跡を実際に訪ねたり、ガイドの人の話を聞きながら、遺跡の中を探索したりなどという活動を行いました。その中で、縄文時代には争いが少なく、人々が協力して生活していたことを聞いた事を受けていたため、高校生では縄文の平和についてもっと深く探求していきたいと思い、縄文と平和をつなげてみようと思いました。縄文時代には弓矢や槍などの武器になりうるものがあるにもかかわらず現代より争いが少ない現代という点について正しく知ることが同じ道を通り繰り返さないようにすることができると感じました。時代ごとに変わっていく争いの原因についてボランティアを通してみんなで考えたい、これを作ったのが安全で過剰に早く当たり前の文化が訪れる笑顔で溢れ溢れた世界を作りたいです。

また、世界全体で起こっている様々な問題の解決にも繋がっていきたく思いました。ロシアによるウクライナ侵襲はまだ解決されていません。ロシア語を高校で学びロシアについて知る中で、私はロシアの文化が大好きだからロシアの悪い面だけ見られるのがとても苦しいと感じています。そんな今だからこそ私たちは今までよりも平和について考え活動すべきだと決意しました。世界では、紛争・戦争などで苦しんでいる人々がいて多くの国で起こっています。また、日本でも北朝鮮によるミサイル攻撃といった国際問題が起きています。政治や宗教などが関係している争いが多く起きているため、世界での共通の平和の概念を世界に広げたいと思っています。

効力ながらもこの「縄文と平和」で解決に導くことができるとともに、自分たちだけでなくこれら生まれてくる世代にとっても過剰に早くやすす社会にしていきたいです。今世界平和というものは今すぐ解決できるような活動ではありません。ですが、平和のバトンを少しずつ繋いでいけば必ずいつかできることと信じています。不可能を可能にする力をみんな一人ずつ持っているということを知ることができるといいと思っています。

「Bring Jomon to the World」

活動の詳細(実施内容/成果・実績など)

出場大会
①ボランティアアワード2023
一昨年度のボランティアアワード2023に出場し初めての全国大会で緊張感もありましたが、青森県で縄文遺跡と平和をテーマにボランティア活動を行っているということを初めて県外の人にも知ってもらえることができ、自分たちの活動の実現性について考え直すことができました。

②FReal SDGs edu こともプレゼン
一SDGsと縄文時代の平和の関連性について高校生という立場でどのように考えているかをプレゼンを行いました。持続可能な社会にするために私たちは何をすればいいか自分たちの考えをお伝えすることができてよかったです。

③みらい甲子園青森県大会
一現在起きている紛争に焦点を置いた国際的な問題が起きていなかった縄文時代と現代を比較して国際化が進む現代でどのようにしていけば国籍、性別、年代関係なく暮らしやすい世界を作ることできるかを発表しました。ファイナリストに選ばれ、県内より多くの人にこの活動を広げることができました。

④みらい甲子園ファイナリスト賞状授与式
争いがなかったこと、平和であったことの原因として協力し合って生活していたこと、近年では近所とのつながりが少なくなっていることの危機感等について発表を行いました。

ボランティアアワード2023
3一
縄文時代について地域住民の方々に伝えていく活動を行ってともに活動しているということを知ることができ、やってよかったと思うことができ、この活動を始めると決めたことを日本語だけでなく、英語でも説明しました。

高校生 VOLUNTEER AWARD 2023

私たちは縄文時代の平和を広めていくだけでなく、縄文遺跡を自分たちで何度も訪れガイド講座も受けて自分たちでもガイドをすることのできるくらいレベルまで学んできた内容をまとめて縄文遺跡で地域のつながりができて、地元を受容する若い世代が増えて、進学や就職のときに青森県に残る人数が増えれば良いなと思いついた地域活性化も含めて様々なジャンルで活動しています。これから私たちが海外フィールドワークをし、日本にいらなければならなかった社会問題について見つけ出し、外国で実際に旅行している政策やボランティア活動を知り、これから各々大学進学した後も社会問題解決に尽力していきたいと思っています。去年の夏から約一年で多くの人に支えられて多くの人に出場し、平和の大切さを伝えてきました。それらの活動を通して地域の方々とお話する機会がと増えて、今まで自分たちの地元に対していいところだけでなく悪いところばかりを見ていましたが、温かく接してくださる方々の出会い、ボランティア活動をしていなかったら感じることのできなかったようなことをたくさん感じることができました。また、縄文時代について興味がある人が多かったのですが、校外活動ももちろんですが、学校でのポスター制作や発表を通して、活動に賛同してくださる人も増えて今年度は去年よりも多くのメンバーで活動することができました。ボランティアは誰かのために活動するということが一般的に思われていますが、逆に私たちが誰かに支えられていることを知ることができ、やってよかったと思うことができ、この活動を始めると決めたことを日本語だけでなく、英語でも説明しました。

「未来へつなぐ平和へのバトン」 今後の展望・夢など

これから実施しようと考えていること

- 海外フィールドワークの実施

一介護の先進国であるノルウェーを訪問することで、介護の限界を迎えつつある都市の立て直しができるように改善点を見つけ出す。ノルウェーの社会政策の専門家に話を聞きに行くことで、今まで日本の都市でなかなか考えられてこなかった新しい政策を考える。ジェンダー平等ランキング上位であるノルウェーで今まで女性たちがどのように地位を高めていったか実際に活動している方々に話を聞きに行き女性の地位向上、男女平等に向けて日本がすべきことを見つけ出す。また、難民キャンプを訪れ難民の方々の実際の暮らしを拝見しこれからのような支援を必要としているかまた不必要な支援はないのかを効率のいい合理的な新しい支援について考えていく。

- 他県の高校生のボランティアをしている様子を視察する

一今までも行ってきてはいますがこれからより良いボランティア活動を行い多くの人を救済するにあたって多くの価値観を知り、改善を行うことが必要だと思う。

これからの目標

- 様々な国を訪れて自分たちの行っている活動を広めていきたい
- 世界平和に向けて各国ではどのような取り組みを行っているのかを知りよりグローバルな活動をしていけるよう計画を立てていきたい。

集合写真

活動団体プロフィール

- 青森県立青森南高等学校外国語科
- 活動歴2年
- 1年次の総合的な探求の時間をきっかけに縄文の平和について学びたいと思いついた活動が始まった。
- 担任が世界遺産マイスターということもあり、入学当初から世界遺産やSDGsについて興味を持つようになった。
- 幼いころから縄文に触れ合うような活動が多かった。
- 縄文の魅力を発信中!!